

花と緑の教室 要予約 開催日の1ヶ月前から電話受付	
会場・集合場所／花と緑の情報センター2階(無料入館エリア)	
10 1 (日) 10:00-11:45	「NIIGATA CAFE GOOD TIME FES.2017 特別セミナー&映画鑑賞会」 ●参加費:2,500円(温室入館料・コーヒータスティング3種類込) ●定員:50名
13:30-14:00	●参加費:2,000円(温室入館料込) ●定員:50名
10 8 (日) 13:30-15:00	「植物学講座⑤ シダの名前を調べよう」 ●参加費:300円 ●定員:30名 ●講師:森田竜義(植物園友の会会長、新潟大学名誉教授)
10 11 (水) 13:30-15:00	「花散歩⑧ 秋の花と実」 ●参加費:300円 ●定員:15名 ●講師:丸山真也(当園職員)
11 5 (日) 13:30-15:00	「根付きアレンジメント ギャザリング寄せ植えを作ろう」 ●参加費:3,000円 ●定員:15名 ●講師:坂上久美子(Atelier Mooi Bloem)
11 8 (水) 13:30-15:00	「花散歩⑨ 針葉樹」 ●参加費:300円 ●定員:15名 ●講師:林寛子(当園職員)
11 12 (日) 13:30-15:00	「植物学講座⑥ 生きた化石はメタセコイアだけじゃない」 ●参加費:300円 ●定員:30名 ●講師:森田竜義(植物園友の会会長、新潟大学名誉教授)
11 26 (日) 10:00-11:30	新潟県立植物園 × 渡六 × にいがたコーヒープロジェクト共催 植物と食文化講座「秋のスイーツとコーヒーのマリアージュ」 ●参加費:1,500円(植物園温室入館券・コーヒーとスイーツのお土産つき) ●定員:20名 ●場所:渡六菓子店(五泉市) ●講師:渡辺修(渡六シェフパティシエ)・星野元樹(スズキコーヒーアカデミーチーフ)・倉重祐二(にいがたコーヒープロジェクト 所長・県立植物園 副園長)
12 3 (日) 13:30-15:00	「植物学講座⑦」 ●参加費:300円 ●定員:30名 ●講師:植物園友の会
12 13 (日) 13:30-15:00	「花散歩⑩ クリスマスの植物」 ●参加費:500円(温室入館料込) ●定員:15名 ●講師:林寛子(当園職員)
12 17 (日) 10:00-11:30	「ミニ門松づくり」 ●参加費:1,000円 ●定員:10名 ●講師:渡辺弘友(当園職員)

企画展示 観賞温室第2室(要入館料)	
9 13 (水) 11 12 (日)	「にいがたオータムガーデンショー」 ●第1部 9 13(水) 10 9(日) 「カラーリーフ～葉の魅力～」 ●第2部 10 11(水) 11 12(日) 「暮らしと植物～秋のガーデニング～」
11 15 (水) 12 26 (火)	「クリスマス展」
観賞温室第3室 作品展示	
9 20 (水) 9 9 (日)	「レカンフラワー～季節の花たち～」 出展:花はなクラブ
10 11 (水) 10 29 (日)	「ハーブアラカルト」 出展:ジャパンハーブソサエティ新潟支部
10 31 (火) 11 12 (日)	「HATSUME展」出展:HATSUME(はつめ)
11 15 (水) 12 3 (日)	「布に咲く癒しのハワイアンキルト」 出展:伊藤真里子ハワイアンキルト
12 5 (火) 12 26 (火)	「クリスマスデザイン展」 出展:Flower Stadio & Shopはな舞
特別展示(メイン会場:花と緑の情報センター)	
10 28 (土) 29 (日)	「秋のいけばな展」 新津華道連盟・新潟県立植物園 共催
週末限定カフェ 「にいがたコーヒラボ」 植物園と県内パリスタの共同企画「にいがたコーヒープロジェクト」がプロデュース。県内の名店から届いた新鮮なコーヒーをパリスタが一杯一杯丁寧にハンドドリップ。サイドメニューは県内有名カフェの手作り焼き菓子を週替わりで提供します。 ●場所/観賞温室第3室1階(入館無料エリア) ●金・土・日・祝祭日 ●10:30～16:00(冬期1月・2月は休業)	
12 3 日曜日	開園20年目突入記念 「開園記念日 温室入館無料デー」

10|1 日曜日 9:30-16:00 | 秋の植物園まつり・新潟県都市緑化フェア |

〈オオオニバス試乗体験、バックヤードツアー、植物ミニ講座、園芸市、食のエリアなど〉
※詳しいイベントスケジュールは9月下旬に公式サイトでお知らせします。

会場内 同日開催 ●にいがたコーヒープロジェクト主催「NIIGATA CAFE GOOD TIME FES.2017」
●新潟市秋葉区主催「アキハアウトドアスポーツフェスタ」

周辺施設イベント
新潟県埋蔵文化財センター
史跡古津八幡山 弥生の丘展示館
「まいぶん祭り」

花と緑の相談コーナー ◆開設日/水曜・日曜 ◆10:15～15:15(12:00～13:00は不在)

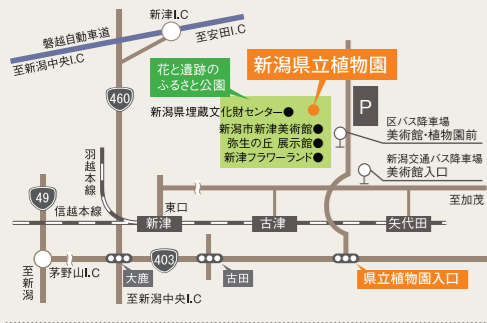
花と緑の情報センター内「相談コーナー」入館無料エリアで皆様からの相談を受け付けています。入館無料エリアにありますので、お気軽にお立ち寄り下さい。
●相談の際、鉢物等の持ち込める植物は、実物があると答えし易いです。●相談はお電話でも受け付けています。(水曜・日曜のみ) 専用電話 | 0250-24-6437

新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
HP <http://botanical.greenery-niigata.or.jp/>
指定管理者 国際総合学園・都市緑化センターグループ

情報発信しています

新潟県立植物園 検索



観賞温室開館日	
10 October	11 November
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4 5 6 7	・ ・ ・ 1 2 3 4
8 9 10 11 12 13 14	5 6 7 8 9 10 11
15 16 17 18 19 20 21	12 13 14 15 16 17 18
22 23 24 25 26 27 28	19 20 21 22 23 24 25
29 30 31 ・ ・ ・	26 27 28 29 30 ・ ・
12 December	
日 月 火 水 木 金 土	
・ ・ ・ ・ 1 2	
3 4 5 6 7 8 9	
10 11 12 13 14 15 16	
17 18 19 20 21 22 23	
24 25 26 27 28 29 30	

観賞温室利用案内	個人	団体(20名以上)	回数券(5回分)	定期券(6ヶ月)
大人	600円	480円	2,500円	1,200円
シルバー(65歳以上)	500円			
高校生・学生	300円	300円		
小・中学生	100円	100円		

●シルバー料金での入館は生年月日を証明できる物の提示が必要となります。
●高校生・学生料金での入館は学生証の提示が必要となります。
●身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳所持者は無料となります(等級により介助者無料)。
●屋外園地無料 | 小中学生主・日・祝日無料

交通アクセス	■JR	信越線古津駅下車徒歩約25分
	■バス	・区バス:新潟駅東口から「新潟駅西口」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分 ・新潟交通バス:新潟駅東口から「矢代田經由白根・湯東営業所」行き「新潟美術館入口」下車徒歩約10分
	■高速道路	磐越自動車道新潟I.Cから国道403号で三条/加茂方面へ約15分
	■一般道路	(新潟方面から)国道49号から茅野山I.Cを国道403号加茂/新潟方面へ

駐車場無料:300台収容

新潟県立植物園 植物園だより

2017 autumn Vol.69



ヤブツルアズキ
Vigna angularis

富樫信平画 S55.9.9 荒川町産

川岸の草地などに生えるつる性の一年草。本州から九州分布し、朝鮮、中国、ネパールにも分布する。植物園では、美術館側から駐車場へ右折する角のツツジの植え込みに蔓を伸ばし、ツツジを覆ってしまうため厄介者になっている。8月から10月に葉腋に総状花序をつけ2個から10個の黄色い花を咲かせる。豆果の形はアズキ(小豆)と同じで線形であるが、アズキよりも細い。アズキはヤブツルアズキから改良された栽培種であるとの説がある。(田中良明)



観賞温室
企画展示
1

にいがたオータムガーデンショー

第2部 10|11(水) 11|12(日)

「暮らしと植物～秋のガーデニング」

開催中のオータムガーデンショー。10月11日(水)から始まる第2部では、県内で活躍するガーデナーの協力で、秋のガーデニングをテーマにした展示を行います。

秋の植物をつかったモデルガーデン、寄せ植え、ギャザリング、ハンギングバスケットなど、ガーデナーたちが腕をふるいます。庭づくりの参考に、ぜひご覧ください。

また、10月11日(水)から19日(木)までの期間限定で国営越後丘陵公園(長岡市)のバラを展示します。この機会をお見逃しなく。

- 10|14(土) 15(日)** 「ガーデナーによるトークセッション」
 ●講師: ござんたいらあやこ(みどりデザイン研究所)、しばいひろこ(風花*kazabana)
 ●会場: 県立植物園観賞温室第2室1階企画展示メイン会場(温室入館料がかかります)
- 11|15(日)** 「根付きアレンジメント ギャザリング寄せ植えを作ろう」
 13:30-15:00
 ●参加費: 3,000円 ●定員: 15名 ●講師: 坂上久美子(Atelier Mooi Bloem)
 ●会場: 県立植物園花と緑の情報センター

関連イベント

ギャザリング(作品イメージ)



第1部「カラーリーフ～葉の魅力」のようす



上: 今年の春のシャクナゲ大株の開花
左: 遅咲きのアンナ・ローズ・ホワイトニーにも蕾が見えはじめた

12月1日で 開園20年目を 迎えます

新潟県立植物園は今年12月1日で満19歳を迎えます。これまで植物園と共に歩み、ご支援くださった皆様に心より感謝申し上げます。

さて、開園20年目の植物園は、全館あげて植物がイルミネーションをまとうクリスマス装飾を皮切りに、新潟特産のアザレア、チューリップ展示へとバトンがわたり、色鮮やかな催しが続きます。寒さが厳しく憂鬱になりがちな新潟の冬ですが、観賞温室でぱっと気持ちが華やく時間をお過ごしください。

また、屋外園地では現在、来春オープン「日本一のシャクナゲ園」の整備が着々と進んでいます。先日の調査では、昨年度植栽したシャクナゲは順調に生育し、また蕾つきも順調で、春には数多くの花が開花することが分かりました。来年の100本を超えるシャクナゲの大株の開花をどうぞ楽しみに。
(大谷 史絵)

12|3
日曜日

開園20年目突入記念
「開園記念日 温室入館無料デー」

開園20周年に向けての大企画!

「みんなでつくる植物園カレンダー2019」

県立植物園を指定管理する(公財)新潟県都市緑花センターでは、皆様からお寄せいただいた植物園の写真を集めて、2019年版カレンダーを発行します。花あふれる植物園の四季、あなただけが知っている風景など、とっておきの一枚をご応募ください。募集要項など詳しくは当園のホームページをチェック!
(11月上旬掲載予定)



平成27年度 はなみどり写真コンテスト
都市公園部門 都市緑花センター理事長賞
「レッドカーベット」安達初美



平成28年度 はなみどり写真コンテスト
都市公園部門 入選
「可愛い出会い」太田誠二

観賞温室
企画展示
2

クリスマス展

11|15(水) 12|26(火)

クリスマスシーズンは、観賞温室全体が植物と花と光とオーナメントで装飾された特別な空間を演出します。

高さ5mのウラジロモミノキのメインツリーと美しく装飾されたパーゴラとのコンビネーション、色鮮やかなポインセチア、冬の定番植物として人気のシクラメン、色とりどりのかわいらしいパンジー、ピオラ、プリムラ、エリカなどの花々が会場を彩ります。

また、花と植物で囲まれた植物園ならではのポイントでの写真撮影も楽しめます。

ご家族、気の合った仲間同士で冬の植物園クリスマス展へご来園下さい。



過去の展示の様子



NEWS
1

オックスフォード大学との 植生調査

平成24年10月にオックスフォード大学附属植物園による日本に自生する植物の調査が行われましたが、今年の7月にも再来日し、調査が行われました。

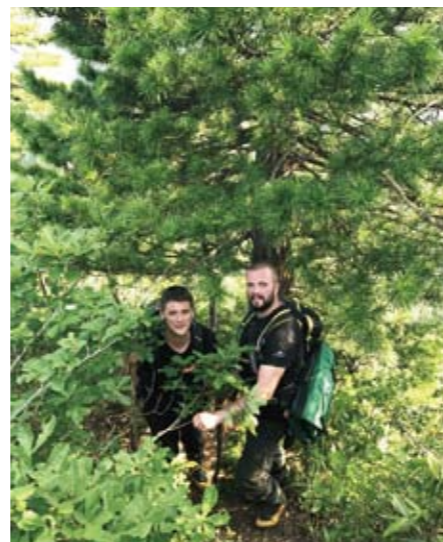
今回の調査は前回の調査と同じ場所での植物相の調査が主でしたが、季節が異なるため開花、結実している植物が異なるほか、見られる植物にも違いがあり、前回よりも多くの植物が確認できた場所もありました。

今回、初めての参加となったダンは、山に入るなり「ジャングルだ!」と感嘆し、天然のものと思われる目指岳で見られたスギ (*Cryptomeria japonica*) や苗場山のクロベ (*Thuja standishii*) について私に何度も確認を求めるなど、日本の植物の美しさと豊かさに驚いているようでした。

確かに、イギリスを含んだヨーロッパの国々は水河におおわれていた時代が長く、イギリス (24万 km²) に自生する維管束植物が1,600種 (内、固有種は1%) ほどなのに対して、日本 (37万 km²) には約6,000種 (内、固有種は36%) と、面積が日本の方が広いとはいえ、種の豊かさの上で大きな違いがあります。他国に行くと、建物や文化、風習の違いにまず驚きますが、自然についても異なる部分は多々あり、日本の自然の豊かさに改めて気づかされることも多いように思います。その他、訪れた二人から「Satoyama!」という言葉も多く聞かれました。人と自然が関わり合いながら多様な種が維持されてきた里山環境は、世界的にも見直され、重要視されているようです。

海外の方々の調査に参加することは、言葉の面でも体力面でも大変なのですが、上記のように改めて日本の良さに気づかされたり、調査する上で学んだりすることも多く、今後も機会があれば協力していければと考えています。

(久原泰雅)



北限のコウヤマキの木の下で



美しいグリーン・タフ (緑色凝灰岩) の川 岩を取り除く二人



冷たい水で水浴びをするベン



三条市大平のため池



調査風景

NEWS
4

三条市大平「ため池の調査」

平成29年9月3日(日)、三条市大平にあるため池で、大平自治会が開催した「ため池の調査」に、植物に関する講師として伺いました。

三条市大平には、かつて農業や養鯉などに活用されていたため池が多くありましたが、今はその利用は減り、放棄状態の池があちこちにみられる状況となっています。そのようなため池は、防災・安全などの観点から近年、改修工事が進んでいます。同地域としては、ため池も地域の自然の一つとして捉え、そこに生育・生息する生き物を観察・記録し、改修工事の際に、生き物の保護・保全に役立ててほしいという目的でこの調査をはじめたとのことでした。

調査は、親子や地域のお年寄り、また、今年の春から三条市へ移住してきた方などが参加し、総勢約20名で行いました。

事前にある程度水抜きをしたため池に入り、植物や魚、水生昆虫などを採集・捕獲し、同定を行う形で調査を進めました。メダカやホトケドジョウ、カエルやヤゴなど、たくさんの生き物が生息していました。植物は、池のほぼ全ての水面を覆うくらいに繁茂しているヒツジグサ、そして、その間を埋めるように葉を浮かせているジュンサイや、ヒルムシロやタヌキモが生育していました。

ため池での捕獲・採集の後、地域の集落センターへ移動し、同定を実施しました。植物については、ため池だけではなく、池周辺の植物や、この集落の中に見られる植物などについても解説を行いました。

このような「自然観察」を通じた地域との連携活動は、植物の保護・保全や、植物の魅力の普及・啓発を活動目的としている植物園にとっても、重要な活動の一つであるということを、再認識させられる機会となりました。

植物の魅力や大切さを未来に伝え、また、植物園の役割をより多くの方に理解してもらえるように、このような連携活動を一層積極的に取り組んでまいります。

(丸山真也)

NEWS
2

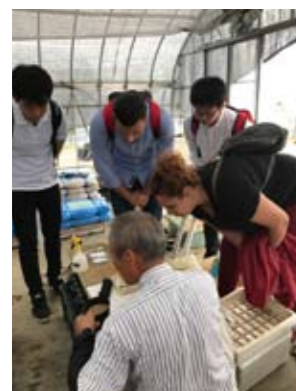
新潟大学農学部留学生の 研修の受け入れ/ 研究成果発表

9月28日(木)から1週間の日程で、トルコから新潟大学農学部へ留学中の学生さんが研修で訪れました。新潟らしい研修をしていただこうと、新潟での生産がさかんで、歴史も深いアザレアの管理、生産地の見学や「秋の植物園まつり」のお手伝いをさせていただきました。

また、10月中旬から、同研究室の発表成果である、胚珠培養を使った今までにないホトギスの雑種作出についての研究の展示を行います。学生さんには、訪れるみなさんにもわかりやすいように表現を工夫していただき、多くの方に注目していただくように準備を進めています。

今後もこのような機会を設けて、お互いに成果のある連携をとっていきたいと思います。

(林 寛子)



生産地での留学生の研修の様子



展示を予定しているホトギスの雑種に関する研究成果

NEWS
3

岡方第一小学校総合学習 「十二湯の植生調査」

新潟市立岡方第一小学校の6年生、地域のコミュニティー、新潟市、植物園とで今年で十二湯の植生調査を6月と8月に行いました。

十二湯は古い時代の阿賀野川の面影を残した三日月湖で、地元では古阿賀 (ふるあが) とも呼ばれています。現在は農業用水源として利用されていますが、絶滅危惧種であるアサザ、ガガブタ、コウホネなどの貴重な植物が生育しています。小学校では、これまで継続して水質調査や植物の分布調査を行ってきました。

調査をはじめた6年間の中でも、植物の移り変わりが見えてきます。昔はハスが一面に生えていたとのことですが今は絶え、昨年から急増したヒシ、最近数が減っているアサザ、池中央部に増加しているガガブタなど、毎年違った姿を見せてくれます。

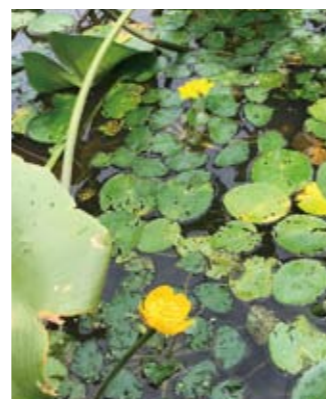
木船に乗るのも特別な体験ですし、調査を通じて、地域に残る貴重な自然を知り、守ることの重要性を学んでもらえればと思います。今後もこの活動を続けることで、末長くこのすばらしい環境が残ることを祈っています。

これまでの成果は、10月14日に開催される新潟市の「湯シンポジウム」で発表されます。

(倉重祐二)



左: 船に乗っての水草の調査 / 右: 8月の調査時に開花していたコウホネ (手前の黄色の花) とアサザ (奥の黄色い花)。間にはヒシの葉が見える



NEWS
5

庄瀬地域生活センターでの 観察会

今年で2度目となる新潟市南区にある庄瀬地域生活センターでの観察会「庄瀬夏休み子ども広場～きみも植物博士になろう～」で講師を務めました。

庄瀬地区は、洋ナシの「ル・レクチュエ」や梨・ブドウ・桃などの産地で、果樹がたくさん植えられている地域です。

この日はあいにくの雨で、外での観察会は諦めて室内での観察会にすることにしたのですが、小学生を相手に二時間半楽しんでもらえるか、少し不安になりながら臨みました。これまでの経験で、食虫植物 (特にハエトリソウ) の観察は受けが良い事が分かっていましたが、その他にもハスのロータス効果やケヤキの種子を実際に飛ばしながら散布について説明したりすると、多くの参加者に喜んでいただけました。

植物園では、植物園以外での教室も時々行っていますが、地域の様子やその為の準備を行うことで新たな発見がある他、子供たちの反応を見るのが何よりの勉強 (修行?) になります。

(久原泰雅)



ロータス効果の説明



どこまでが葉でしょうか

園内
ウォッチング
〈温室〉

色の移り変わりが
美しいシクンシ
(*Combretum indicum*) シクンシ科

シクンシは南アジア原産の常緑木本性つる植物です。初めは低木で、生長するとつる状になり、長いものは8m以上伸びます。

花柄のように見える部分は、細長い筒状のがくです。その先端にある蕾は上向きにつきますが、咲くと垂れ下がります。咲き初めは白色で、だんだんとピンク色になり、最後は赤色に変化します。夜になると芳香を漂わせ蛾を誘い、受粉出来なかった場合に備え、翌日は花の色を変え、ハチやミツバチ、ハエなどの昆虫を誘います。繊細な花の美しさだけでなく、子孫を残す戦略に生きるための力強さを感じます。

シクンシは別名でDrunken-Sailor(酔っばらいの水夫)と呼ばれています。花の色が白色から赤色に変わる事、花が風に吹かれ揺れる姿が、水夫がお酒を飲んで酔っ払い、顔が徐々に真っ赤になる様子や、ゆらゆらと揺れる姿が、酔って千鳥足で歩く姿に由来していると言われています。色の移り変わりを楽しめしますので、この機会にどうぞご覧ください。(小日向美香)



咲き初めは白色で、時間とともに赤色に変化する



ツリフネソウ



キツリフネ



シロツリフネ

新潟の植物

ツリフネソウ
Impatiens textori

～夏の林を華やかに彩る“フネ”～

夏から初秋にかけて、林の中を歩いていると、紅紫色で、船を吊り下げたようなユニークな形の花をつけた植物を見ることができます。ツリフネソウです。

少し湿っているような環境で、日が差し込むような林の縁でよく見られます。付近には、花の色が黄色のキツリフネ(*Impatiens noli-tangere*)や、ツリフネソウの花が真っ白になったシロツリフネ(*I. textorii* f. *pallescens*)が咲いていることがあります。シロツリフネはあまり頻繁には見ることはありませんが、ぜひという方は、国営越後丘陵公園里山ゾーンの園路沿いにたくさん咲いているので、そちらでご覧ください。

ツリフネソウは、花を訪れる昆虫に巧みに花粉をくっつけたり、弾けるように種子を飛ばしたりと、花の不思議や花と昆虫の関係性などを、見て、触って体験することのできる植物です。この季節に散歩に出かけたら、ぜひツリフネソウを探していただき、花を眺めて楽しむだけでなく、訪れる昆虫を眺めたり、果実に触ってみたりして、ツリフネソウを楽しんでみてください。

(丸山真也)



新大正門前のスズカケノキの街路樹



実

園内
ウォッチング
〈園地〉

スズカケノキ

秋が深まったある日、散歩中にふと足下を見るとピンポン玉のような実が落ちてることがあります。見上げてみると、その実が鈴なりに付いて、幹には所々樹皮が剥がれて抽象画のような斑点模様のある高木があります。それがスズカケノキです。

実の形が山伏の着る鈴懸(すずかけ)という法衣についている房に似ていることから、和名がスズカケノキになったといわれています。プラタナスという属名でも呼ばれていますが、3種あるうち、日本で多く植栽されているのは、モミジバズカケノキです。

スズカケノキの仲間は、成長が速く、排気ガスにも強いことから、街路樹や公園樹として世界中で植栽されています。セイヨウニレ、セイヨウシナノキ、セイヨウトチノキと並んで世界四大並木のひとつとされ、日本ではかつてイチョウやサクラと並んで最もよく植えられている街路樹でしたが、現在(平成23年度調査)では、10番目になっています。大きな葉が落ち葉になり側溝を埋めてしまったり、害虫が付きやすく倒木の危険もあることから全国的に減少傾向にあり、新潟県での植栽が少ないのは風で枝が折れやすいことも原因ではないかと考えられます。新潟市では、新潟大学に向かう坂道に街路樹として植えられています。県立植物園でも駐車場に20m近い高さのスズカケノキが3本植えられていますので、お立ち寄りの際は是非ご覧ください。

園内の植栽状況

●花と緑の相談コーナー●

植物
Q&A

Q

近年、ツバキの花がきれいに咲いてくれません。蕾のままで終わったり、開花しても虫に食われたようになっていきます。咲かない蕾には穴が空いていたりします。

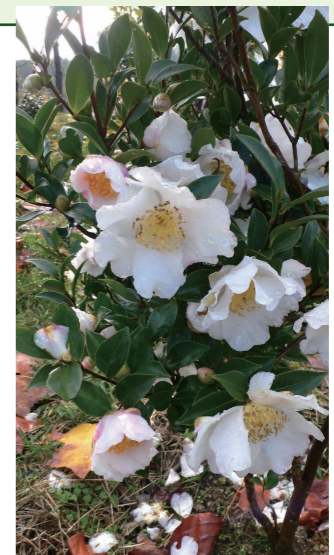
A

ツバキの蕾がうまく咲かない原因にはいろいろありますが、ご質問の場合はスギタニモンキリガという蛾の幼虫が蕾を食害したことによります。

この蛾は一般的な蛾とは異なって、初夏から秋の間は土中で過ごし、10月～11月に羽化してツバキの蕾に産卵します。孵化した幼虫は蕾の中に食入して内部を食害し、幼虫時代を過ごします。春の開花時期になると、幼虫は齢が進んで浅黒いイモムシになっています。この蛾の被害を防ぐためには、成虫が飛来する時期に緑化用ディブテレックスやオルトラン水和剤などを数回散布して駆除します。

その次に、開花時期に蕾と花をよく観察して、穴の開いた蕾や食害のある花を摘み取って中にいる幼虫を殺します。そして、成虫退治に使った薬剤を散布して、残った幼虫を退治します。油断していると、どのツバキも花を見られなくなりますから、駆除をするときは徹底して対策を取ってください。

(園芸相談員 田中秀明)



植物園に寄贈された新潟大学名誉教授 萩屋先生から寄贈されたツバキ



古くから栽培されるツバキの園芸品種「岩根紋」